**春宮神社**

宇佐神宮の主参道を通る訪問者は、途中でいくつかのより小さな神社を通り過ぎます。その一つが春宮神社で、八幡神として祀られている日本の伝説的な15代天皇である応神天皇の息子、莵道稚郎子命を祀る摂社です。仁徳天皇となった兄の大鷦鷯命をはじめ、莵道稚郎子命の他の5人の兄弟姉妹が、より上宮（上の社）に近い所にある若宮神社で祀られています。

ある伝説によると、応神天皇は、勤勉な莵道稚郎子命を次の天皇にしたいと考え、彼を皇太子にしたと言われています。しかし、大鷦鷯命が長男であったことから、莵道稚郎子命は自分が継承順位の第一位になるのは正しくないと考えました。応神天皇の死後、莵道稚郎子命は兄に天皇の位を継ぐことを勧めましたが、大鷦鷯命は彼らの父親の選択を尊重したいと考え、2人の間で膠着状態に陥りました。公式な統治者が不在のまま数年が経った後、莵道稚郎子命は国の行く末をますます案じるようになりました。最終的に、莵道稚郎子命は彼の兄が天皇になる道を切り開くため宇治川に身を投げ、自殺することを選びました。

莵道稚郎子命は、聡明で知的な学生だったので、現在は学問の神として崇拝されています。春宮神社は、15世紀より前に、莵道稚郎子命を祀るため現在の場所に最初に建てられました。後にこの神社は、より下宮（下の社）に近い所へ移されましたが、現在の朱色に塗られた社は1936年に元の場所に再建されました。